
2022年3月期 決算説明資料

プライム市場 5121
藤倉コンポジット株式会社

2022年6月9日

代表取締役社長 森田健司



FUJIKURA COMPOSITES



目次

本日お伝えしたいこと

事業概要

- コンポジット技術により、人々の「豊かなくらし」をささえる

決算情報 & 業績予想

- 主要セグメントすべてで増収増益、
連結で過去最高益を更新

中期経営計画進捗状況

- 各製造現場での生産性向上、収益改善により
回復期の3か年損益目標を達成の見込み
- 達成見込みに伴い、新たな数値目標を設定
- 当中計における事業環境の変化に伴い、今後の事業環境を分析
- トピックス



1. 事業概要



FUJIKURA COMPOSITES



FUJIKURA COMPOSITES

藤倉コンポジット株式会社

コンポジット = 複合化・複数の要素を組み合わせる事

当社は、これまでゴムと布を組み合わせる技術から、
金属や樹脂などと組み合わせることで様々な製品を生み出してきました。
今後は、複合化技術を生かし、ゴムだけにとらわれない、
新たな製品分野に積極的に進出し、価値の創出に取り組んでいきます



主に3つのセグメントで事業を展開

スポーツ用品

売上高 売上高構成比
9,119百万円 24.5%

- ゴルフ用カーボンシャフトの製造販売
- 産業用CFRP製品の製造販売
- 登山等アウトドア製品の販売

引布加工品

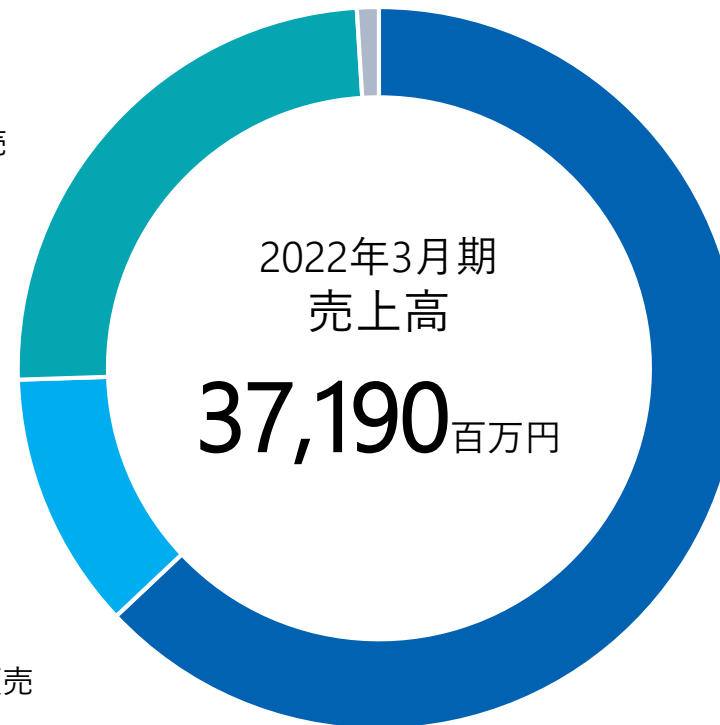
売上高 売上高構成比
4,289百万円 11.5%

- ゴム引布の製造販売
- 船舶・防衛関連救命いかだの製造販売
- 救命・医療・災害用製品の製造販売
- 産業用ゴム引布加工品の製造販売
- 印刷材料の製造販売

産業用資材

売上高 売上高構成比
23,416百万円 63.0%

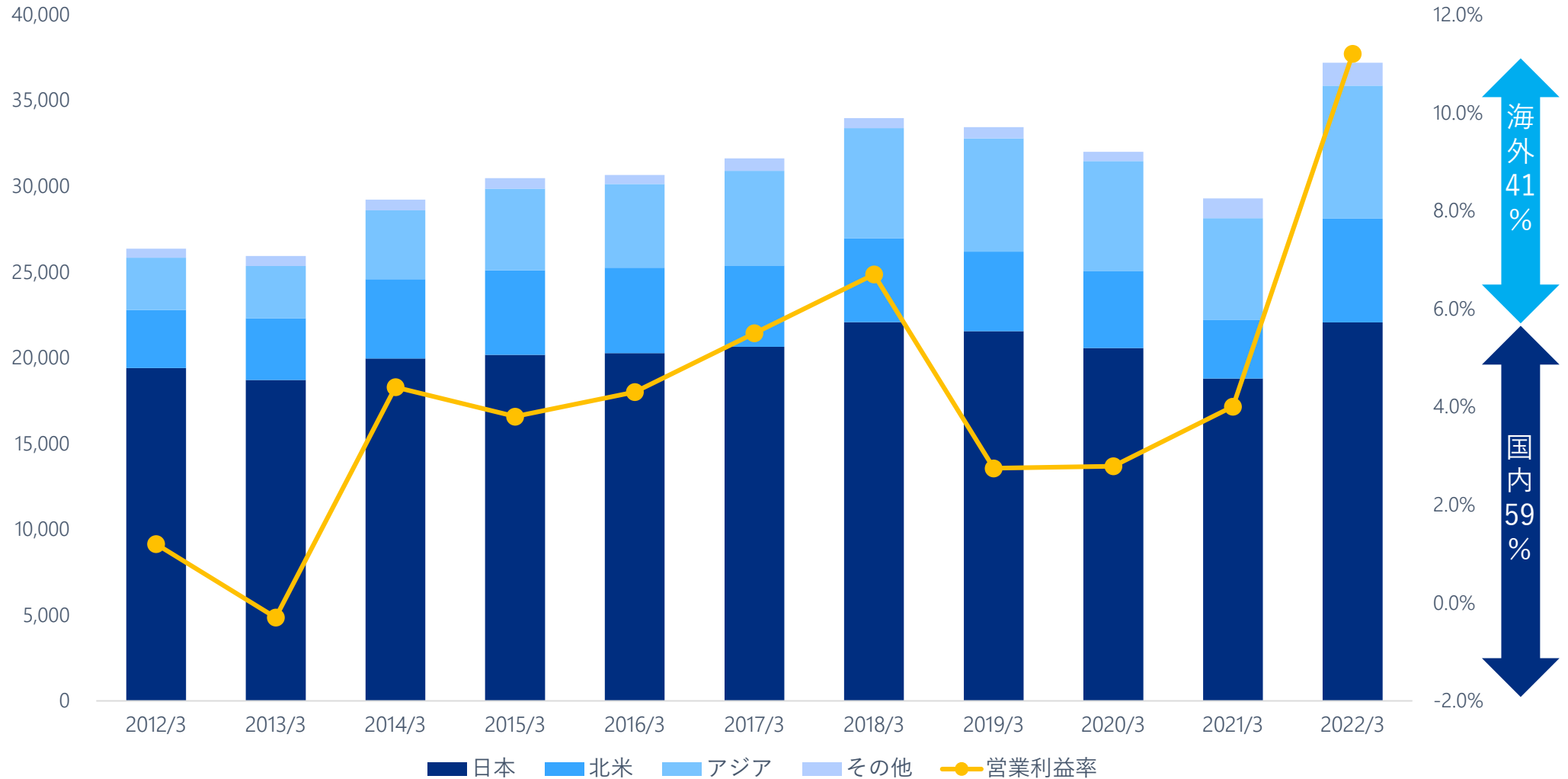
- 自動車部品の製造販売
- 住宅設備・インフラ関連部品の製造販売
- 医療関連部品の製造販売
- 空圧制御機器の製造販売
- 液晶・半導体製造設備関連機器の製造販売



地域別売上高と売上高営業利益率の推移

- 国内外売上高は増加し、営業利益率も大幅伸長
- 売上高海外比率が初の40%超え

(単位：百万円)





II. 2022年3月期決算情報



FUJIKURA COMPOSITES

事業に関する業績要因

売上高

- 自動車市場は上期上昇も、下期は減速
- 住宅設備市場は通期で安定して推移
- 半導体設備投資は好調を維持して推移
- ゴルフシャフトは市場、シェアともに拡大し好調を維持

営業利益

- 主要セグメントすべてで増収増益、連結で過去最高益を更新

2022年3月期 事業環境

- 新型コロナウイルスからの回復は地域格差が生まれ、ASEANが低調となった
- 下期は半導体不足によりスポーツ用品を除く全セグメントで影響を受けた
- 下期は全セグメントで原材料、輸送費の高騰が足枷となった

当期の 特殊要因

- 急激な円安で382百万円の為替差益を計上
- 2022年3月の福島県沖地震の復旧費用として70百万円の特別損失を計上
- 中国子会社2社の未払債務取崩益により452百万円の特別利益を計上

2022年3月実績

- 世界経済はおおむね回復基調で推移し、自動車市場の回復、液晶・半導体市場の好調維持、ゴルフシャフトの好調継続と全主要セグメントで増収となった
- 収益性の面では需要急回復による原材料価格の上昇、輸送費用の増加など多くの課題があるなか、これまでの収益改善策が奏功し過去最高益となった

(単位：百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 1Q段階計画	2022年3月期 2Q段階計画	2022年3月期 実績	期初計画比	前期比
売上高	29,275	31,000	35,200	37,190	+ 20.0%	+ 27.0%
営業利益	1,172	1,100	4,100	4,160	+ 278.2%	+ 255.0%
営業利益率 (%)	4.0%	3.5%	11.6%	11.2%	+ 7.7P	+ 7.2P
当期利益	1,182	1,200	3,100	4,062	+ 238.6%	+ 243.5%

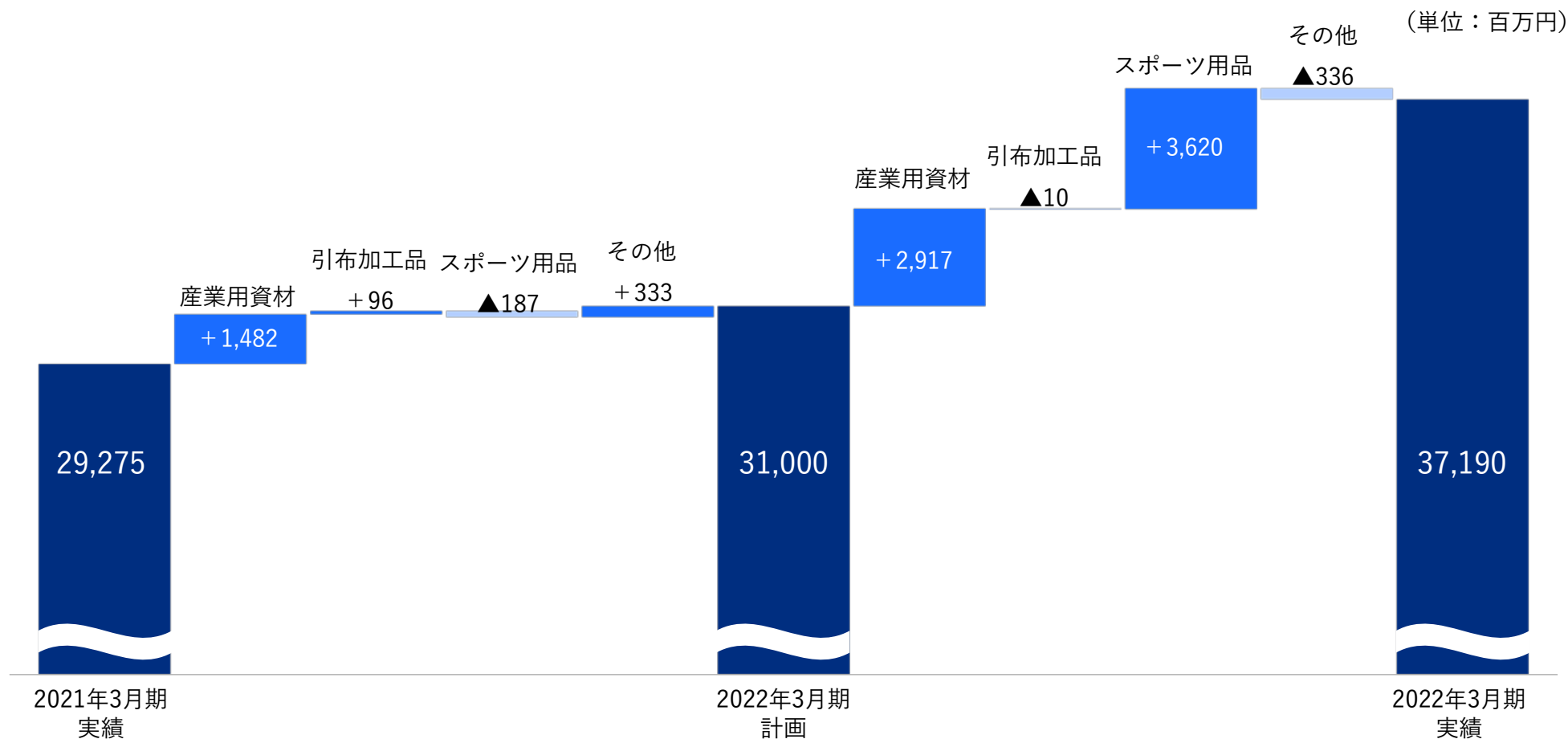
主要セグメント別実績

(単位：百万円)

セグメント		2021年3月期 実績	2022年3月期 当初計画	2022年3月期 実績	前期比	トピックス
産業用資材	売上高	19,017	20,500	23,416	+ 23.1%	<ul style="list-style-type: none"> 自動車・住設の各市場とも世界的に需要が増加、下期になり原材料価格の上昇及び供給遅れ、輸送費増加も増収増益。 液晶・半導体市場は設備投資が好調を維持、医療市場も堅調に推移し増収増益。 以上により、産業用資材セグメントは増収増益で着地。
	営業利益	380	900	1,151	+ 202.4%	
	営業利益率	2.0%	4.4%	4.9%	+ 2.9P	
引布加工品	売上高	4,203	4,300	4,289	+ 2.0%	<ul style="list-style-type: none"> 自動車及び電気・電子関連の好調は継続し増収増益。 電力及び産業用資材は比較的堅調に推移も、舶用品国内需要が低下し減収減益。 印刷材料は輸出受注の回復と円安効果、生産体制見直しも奏功し増収増益。 以上により、引布加工品セグメントは増収増益で着地。
	営業利益	39	100	62	+ 58.2%	
	営業利益率	0.9%	2.3%	1.4%	+ 0.5P	
スポーツ用品	売上高	5,686	5,500	9,119	+ 60.4%	<ul style="list-style-type: none"> ゴルフ用カーボンシャフトは、米国モデル「VENTUS」と日本モデル「SPEEDER NX」が日米で多くのツアープロに使用され、市場認知度が向上し大幅に販売が向上。相乗効果としてOEM販売も好調に推移し増収増益。 アウトドア用品はハイキング市場は回復基調にあるものの、期中で在庫不足が発生、第4四半期で回復し増収増益。 以上により、スポーツ用品セグメントは増収増益で着地。
	営業利益	1,238	900	3,409	+ 175.2%	
	営業利益率	21.8%	16.4%	37.4%	+ 15.6P	

2022年3月期 売上高の増減要因分析

2021年3月期 実績 ⇒ 2022年3月期 計画 ⇒ 2022年3月期 実績



期初想定レート：JPY105/USD、JPY16/CNY



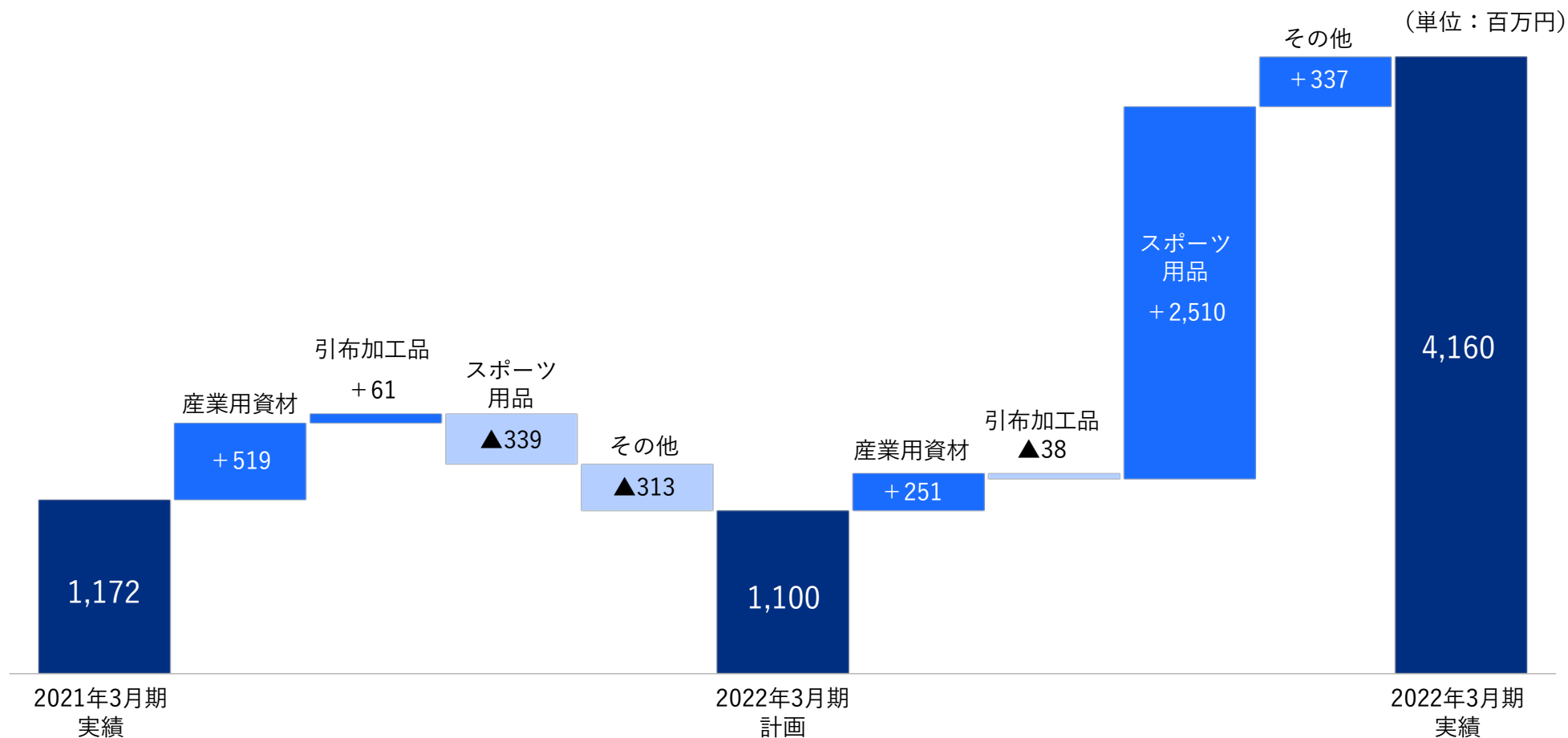
前期実績比
+1,725百万円



計画比
+6,190万円

2022年3月期 営業利益の増減要因分析

2021年3月期 実績 ⇒ 2022年3月期 計画 ⇒ 2022年3月期 実績



期初想定レート：JPY105/USD、JPY16/CNY



前期実績比
▲72百万円



計画比
+3,060百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2021年3月期		2022年3月期			内容
	期末残高	構成比	期末残高	構成比	増減額	
流動資産	20,707	59.4%	23,735	62.9%	+ 3,029	好業績を受け、現預金、売掛、たな卸資産が増加
固定資産	14,168	40.6%	14,015	37.1%	▲154	設備投資は前年比増加も、償却が進み減少
資産合計	34,875	100.0%	37,750	100.0%	+ 2,875	—
流動負債	7,981	22.9%	8,636	22.9%	+ 655	借入金の進めるも買掛、未払法人税が増加
固定負債	2,074	5.9%	1,641	4.3%	▲433	借入金の返済を進め減少
負債合計	10,056	28.8%	10,277	27.2%	+ 221	—
純資産合計	24,819	71.2%	27,473	72.8%	+ 2,654	自己株式取得により減少も利益剰余金増加
負債・純資産合計	34,875	100.0%	37,750	100.0%	+ 2,875	—

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,129	4,795	+ 1,665
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,374	▲418	+ 955
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,449	▲3,772	▲2,323
現金及び現金同等物の増減額	251	1,125	+ 874
現金及び現金同等物の期首残高	5,528	5,780	+ 251
現金及び現金同等物の期末残高	5,780	6,905	+ 1,125

営業活動によるキャッシュ・フロー

主に「税金等調整前当期純利益」51億6千1百万円を計上したことによるもの。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に「有形固定資産の取得による支出」2億8千万円によるもの。

財務活動によるキャッシュ・フロー

主に「自己株式の取得による支出」20億5千3百万円によるもの。















III. 2023年3月期業績予想



FUJIKURA COMPOSITES

2023年3月期 主要な外部環境

	分類	2023年3月期の外部環境	2022年3月期の結果	2023年3月期の計画
自動車	海外	半導体不足は22年末まで続く見通しだが、半導体生産用資源の調達難により、2Q以降、さらなる不足に陥る潜在リスクあり。		
	国内			
住宅設備・インフラ		景気回復に伴う住宅着工件数の回復傾向は続き、住宅設備関連機器もこれにけん引されると見込む。 インフラは2022年3月期比微増を見込む。		
産業機械	液晶・半導体	半導体設備投資は、2022年3月期比+24%と好調の続く見通しだが、ロシア依存の高い半導体製造用資源の調達難に見舞われる可能性がある。		
医療		堅調に推移すると見込む。		
スポーツ	ゴルフ	国内、海外とも前期下期の好調が継続すると見込む。		

2023年3月期業績予想

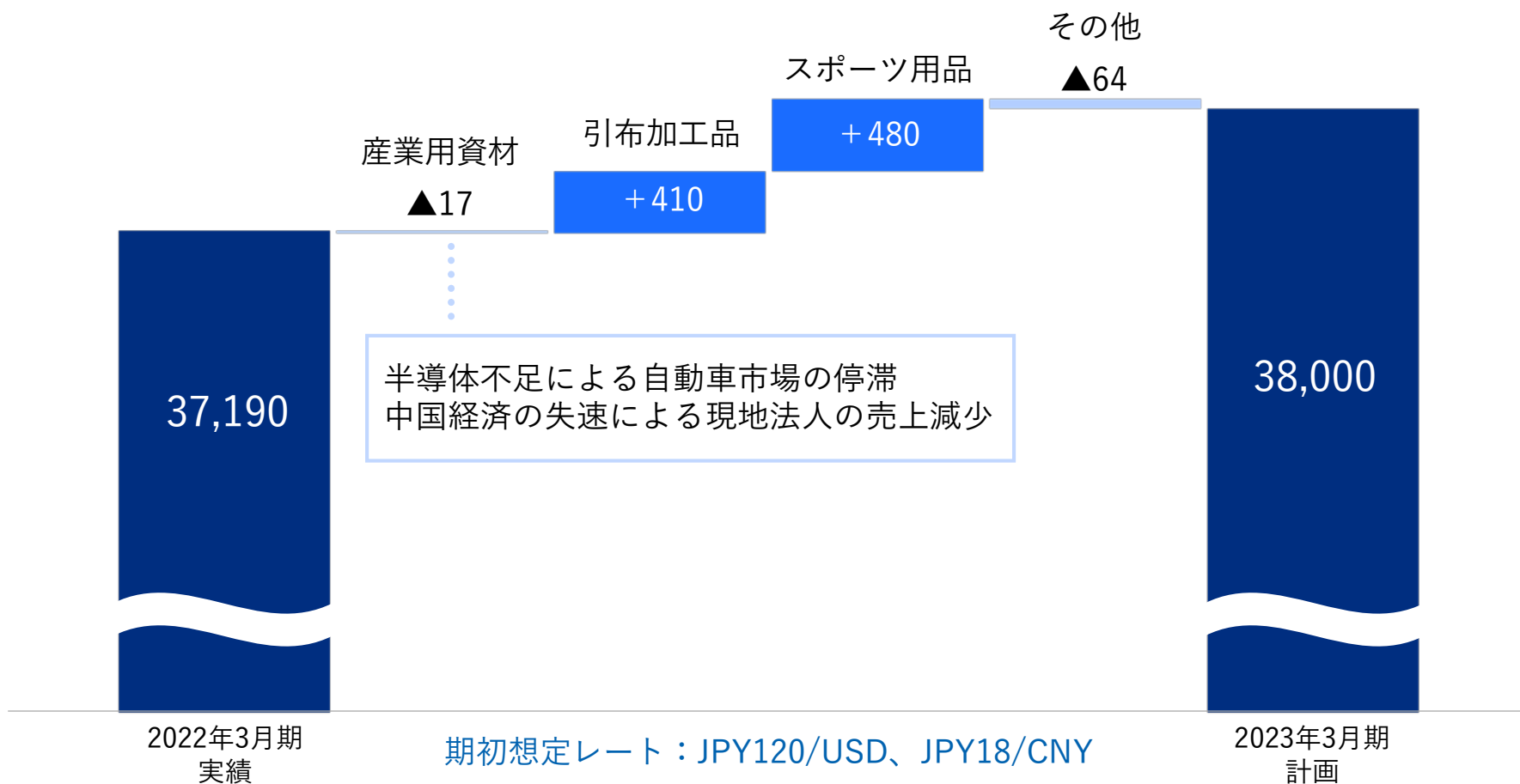
- 2023年3月期の世界経済は回復基調から一転、地政学リスクの顕在化により先行きが不透明な状況になっている。
- 原材料費、物流費、人件費など様々なコストアップ要因があるなか、改善活動を継続し収益性維持に努める。

(単位：百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	前期比 (%)	前期比 (額)
売上高	37,190	38,000	+ 2.2%	+ 809
営業利益	4,160	4,500	+ 8.2%	+ 339
営業利益率 (%)	11.2%	11.8%	+ 0.6P	—
当期利益	4,062	4,000	▲1.5%	▲63

2023年3月期 売上高の増減要因分析

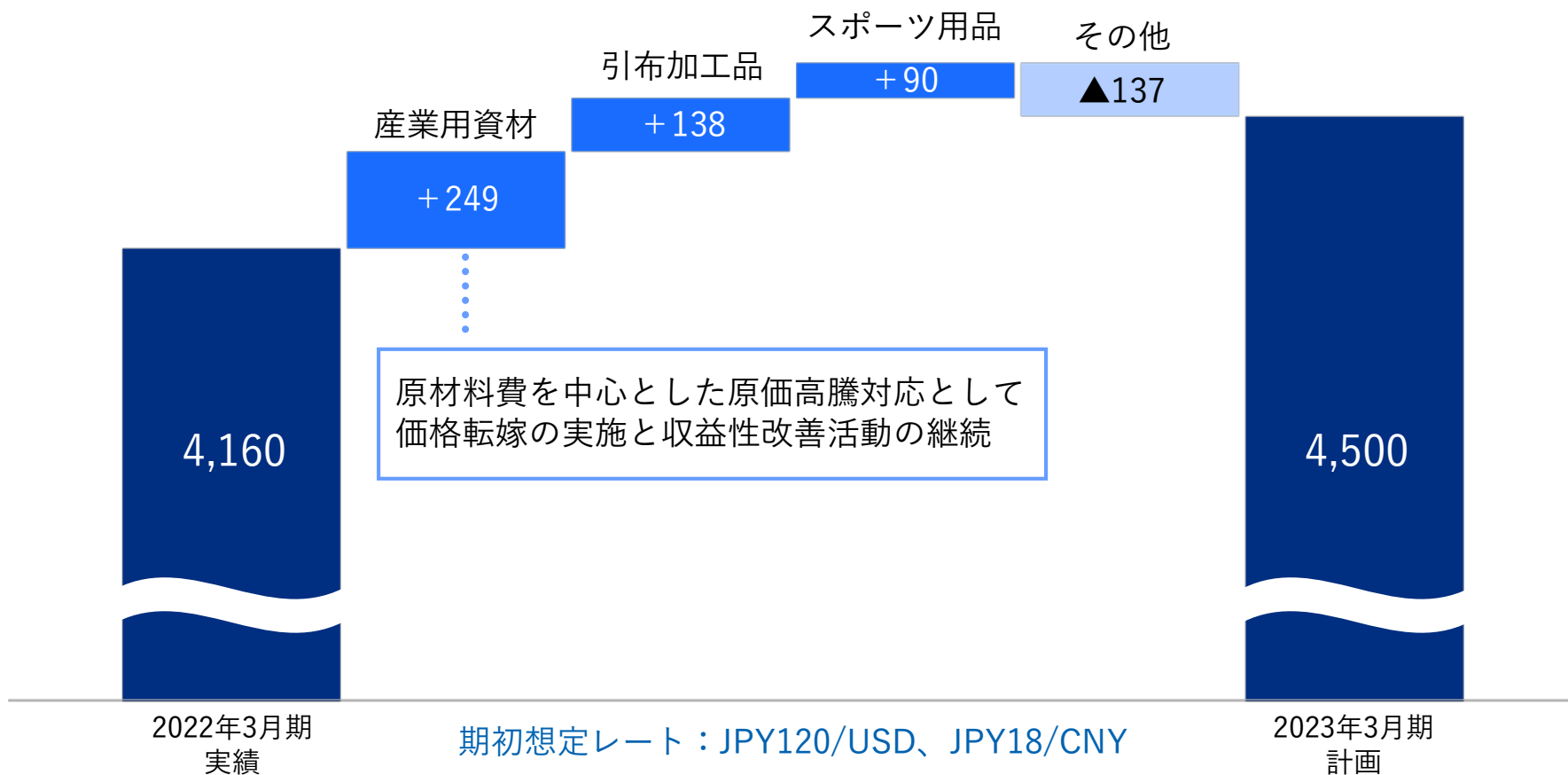
(単位：百万円)



前期実績比
+809百万円

2023年3月期 営業利益の増減要因分析

(単位：百万円)



前期実績比
+339百万円

主要製品郡別 実績と計画

	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画
自動車	<p>北米</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産台数は前期並みも予算を達成。 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足は2022年末まで続くと見込み予算化。
	<p>中国</p> <ul style="list-style-type: none"> 半導体不足などマイナス要因有も予算達成。 リコールに伴う特需もプラス要因。 原材料の調達難によりDISは低水準。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期比9割程度を想定もロックダウンの影響については不透明。
	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車減産の影響は限定的。 海外向けは地域およびユーザーによって差異。 リコールに伴う特需もプラス要因。 	<ul style="list-style-type: none"> 1Qは半導体不足による自動車減産の影響を見込む。 インド市場向け製品の需要増。 材料高騰分の価格転嫁により前期並みを見込む。
<p>参考外部環境データ： 自動車生産台数推移 (スライド48)</p>		
住宅設備・ インフラ	<ul style="list-style-type: none"> 給湯機・水・空圧(主に半導体市場向け)が好調 インフラは工事遅れの影響が解消され始めた。新規立ち上げアイテムの需要が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 部品調達難の影響を受けた給湯機の挽回生産、海外需要のさらなる増、インフラ新規立上げ品の流動安定、新規プリンター部品の流動により前期比増を見込む。
	<p>参考外部環境データ： 新設住宅着工戸数の推移 (スライド48)</p>	

主要製品群別 実績と計画

2022年3月期 実績

2023年3月期 計画

産業機械 液晶・半導体

- 半導体需要の急拡大によって半導体関連製品の売上増。
- 除振台は半導体が好調の反面、FPDで見込みよりも減。
- 精密加圧ユニットの立ち上げ遅れによりマイナス。

- 半導体市場は引き続き好調と見込む。
- 新設計除振台・搬送装置など成長要素については試作フェーズへ移行し、量産への設備投資を積極的に実施。

参考外部環境データ：
半導体関連設備投資と前年比成長率の推移
半導体関連資源アンケート結果
(スライド48)

医療

- 酸素濃縮器の需要急増に伴い関連部品の売上増。
- 医療部材を中心した新規品の立ち上げ遅延。

- コロナによる特需は落ち着くもシェアを維持。
- 前年遅延した部材新規品の立ち上げ・流動による売上確保によって、前期並みの売上を見込む。

スポーツ用品

- 高市場シェアが維持され、SpeederおよびVENTUSの新モデル投入によってさらに好調となった。
- 北米市場もアフターマーケット市場が好調を継続。
- 国内ツアー、米ツアーでのトッププロの高使用率、ツアー優勝などユーザーのブランドへのイメージ向上。

- 高い市場シェアおよび市場の活況を継続。
- 国内のシャフト関連売上は下振れ見込みも、北米市場は、VENTUSの新製品投入により上振れを見込む。

参考トピックス：(スライド40-42)

セグメント別の施策

産業用資材
自動車・
住宅設備・
インフラ

- 原材料高騰、調達難の影響を最小化するため、原価低減、価格転嫁等の施策をスピーディーに実行する。
- 生産性向上、原価低減のため自動化を推進、積極的な設備投資を進める。

産業用資材
液晶・半導体

- 市場は好調を維持、次世代装置の獲得に注力し、積極的な投資を実行する。

産業用資材
医療

- 新製品の開発を推進し既存顧客への拡販を進めるとともに、積極的な設備投資で新たな領域へ参入する。

引布加工品

- 人命救助という使命のもと、新型いかだの拡販を推進する。

スポーツ用品

- 主力の「VENTUS」「Speeder」について拡販し、新モデルの市場投入でシェアアップを図る。
- CFRP製産業用品を量産化し、事業領域の拡大を推進する。

■ 産業用資材

売上高

営業利益



(百万円)	2022/3	2023/3 計画	前期比	
			増減率(%)	増減額
売上高	23,416	23,400	▲0.07%	▲16
営業利益	1,151	1,400	+21.6%	+249
営業利益率	4.9%	6.0%	+1.1P	—

■ 引布加工品

売上高

営業利益



(百万円)	2022/3	2023/3 計画	前期比	
			増減率(%)	増減額
売上高	4,289	4,700	+9.6%	+481
営業利益	62	200	+222.6%	+91
営業利益率	1.4%	4.3%	+2.9P	—

■ スポーツ用品

売上高

営業利益



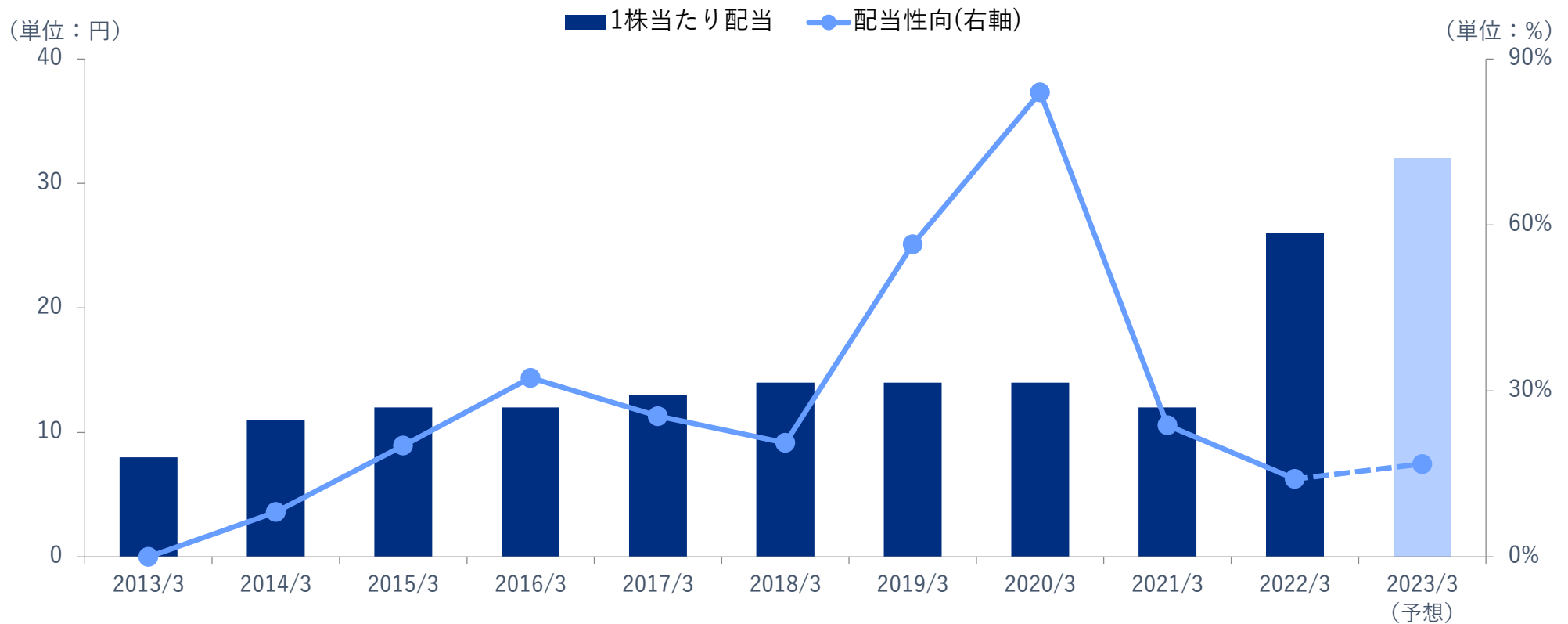
(百万円)	2022/3	2023/3 計画	前期比	
			増減率(%)	増減額
売上高	9,119	9,600	+5.3%	+481
営業利益	3,409	3,500	+2.7%	+91
営業利益率	37.4%	36.5%	▲0.9P	—

基本方針

当社は、利益還元方針を以下のとおり定めております。

- 総還元性向：安定配当を継続しつつ、さらに利益還元を充実させるために、総還元性向30%を目標
- 配当：中間配当と期末配当の年2回
- 自己株式取得：市場環境や資本効率等を勘案し、適切な時期に機動的に実施
- 株主優待：ゴルフシャフトのリシャフト及びアウトドア用品の優待販売の継続

1株当たり年間配当金の推移





IV. 中期経営計画進捗状況



FUJIKURA COMPOSITES

中期経営計画の見直し状況

売上高

- 産業用資材、スポーツ用品が大きく増加
 - 自動車市場の回復がスローと予測も想定より早期回復
 - 半導体市場の想定超の伸長、新規案件予算化により増加
 - ゴルフ市場は当初縮小の予測も、市場拡大、シェア拡大を反映

営業利益

- 産業用資材、スポーツ用品が大きく増加
 - 新規案件予算化による影響
 - スポーツ用品の好調継続とCFRP産業用途で利益増

	当初計画			新市場区分の上場維持基準の 適合に向けた計画書発表			現計画		
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
2023年3月期 (144期)	32,400	1,600	4.9%	35,400	4,000	11.3%	38,000	4,500	11.8%
2024年3月期 (145期)	33,900	2,000	6.0%	37,600	4,600	12.2%	40,400	5,300	13.1%
2025年3月期 (146期)	35,400	2,300	6.7%	39,800	5,300	13.3%	42,700	6,100	14.3%

-2021.3
第5次中期経営計画

2021.3-2025.3
第6次中期経営計画

第6次中期経営計画 21年3月期-25年3月期

TRANS } FORM

変化にチャレンジし、「変わる」から「変える」へ

成長期

中期経営計画 フェーズ 2

2023.3 – 2025.3

回復期

中期経営計画 フェーズ 1

2021.3 – 2023.3

2021.3

売上高 : 29,275百万円
 営業利益 : 1,172百万円
 営業利益率 : 4.0%
 ROE : 4.8%

2022.3

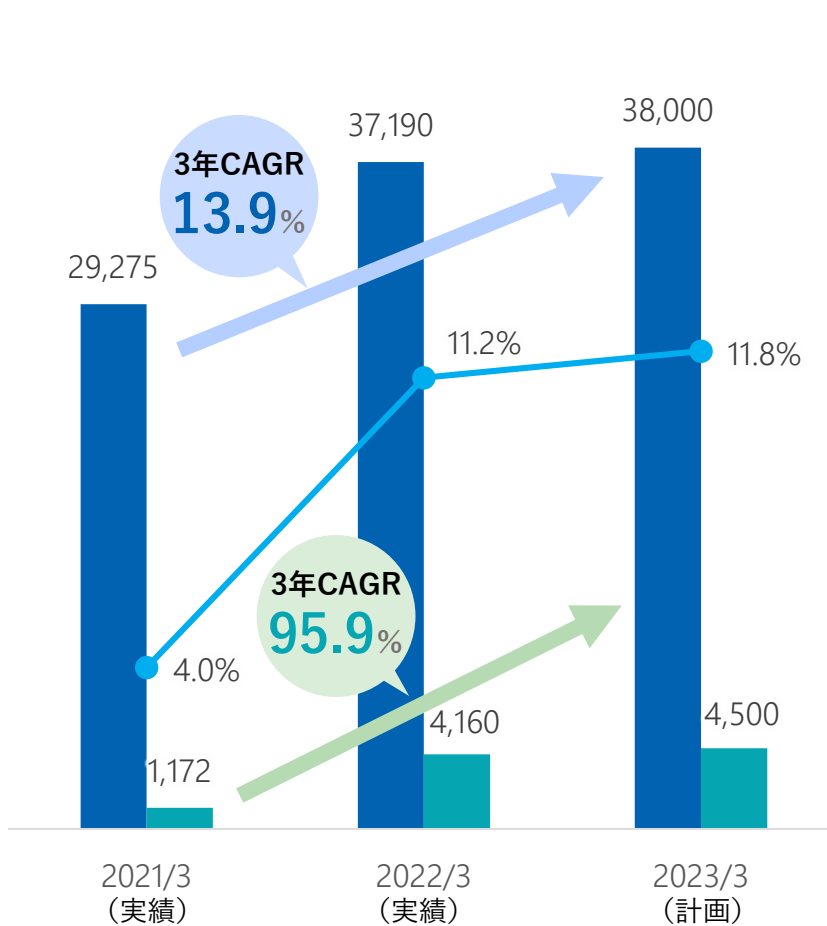
売上高 : 37,190百万円
 営業利益 : 4,160百万円
 営業利益率 : 11.8%
 ROE : 14.8%

単位： 百万円		売上高	営業利益	営業利益率
実績	2021年3月期 (142期)	29,275	1,172	4.0%
実績	2022年3月期 (143期)	37,190	4,160	11.2%
計画	2023年3月期 (144期)	38,000	4,500	11.8%
計画	2024年3月期 (145期)	40,400	5,300	13.1%
計画	2025年3月期 (146期)	42,700	6,100	14.3%

中期経営計画のフェーズ1・2の比較

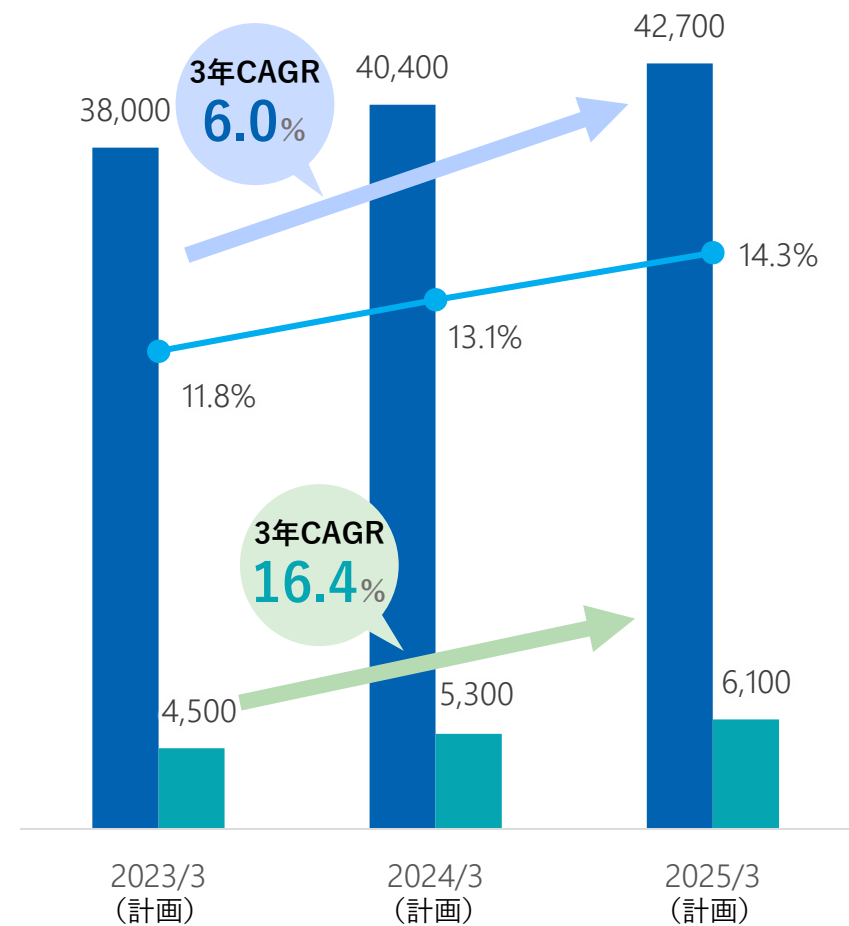
回復期

■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上総利益率 (%)



成長期

■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上総利益率 (%)



流通株式時価総額基準充足に向けた基本方針

流通株式時価総額増加 \equiv 時価総額の増加 \times 流通株式比率の増加

時価総額の増加に関する考え方

中期計画の達成により1株当たりの当期純利益（EPS）を高め、株価の上昇を目指します。

	当期純利益（計画値）		想定EPS
2022年3月期（143期）	4,062百万円（実績）		180.58円
2023年3月期（144期）	4,000百万円	➡	177.79円
2024年3月期（145期）	3,900百万円		173.34円
2025年3月期（146期）	4,400百万円		195.56円

流通株式比率の増加に関する考え方

新株予約権の発行と自己株式取得を組み合わせることで、流通株式時価総額を向上させることを目指します。

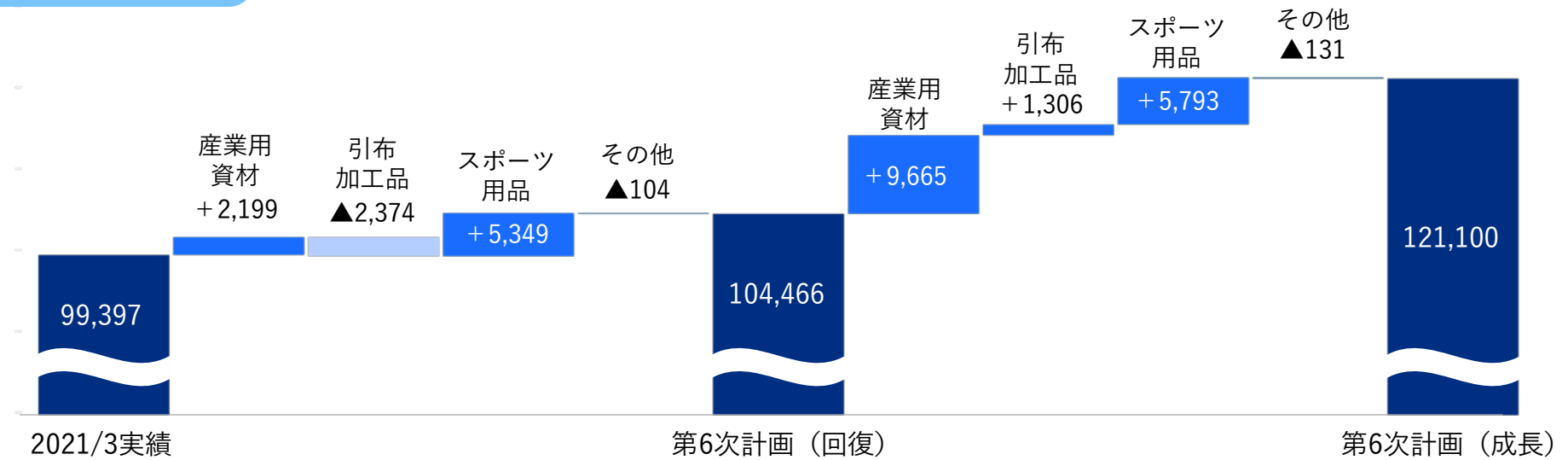
中期経営計画の進捗状況①

(単位：百万円)

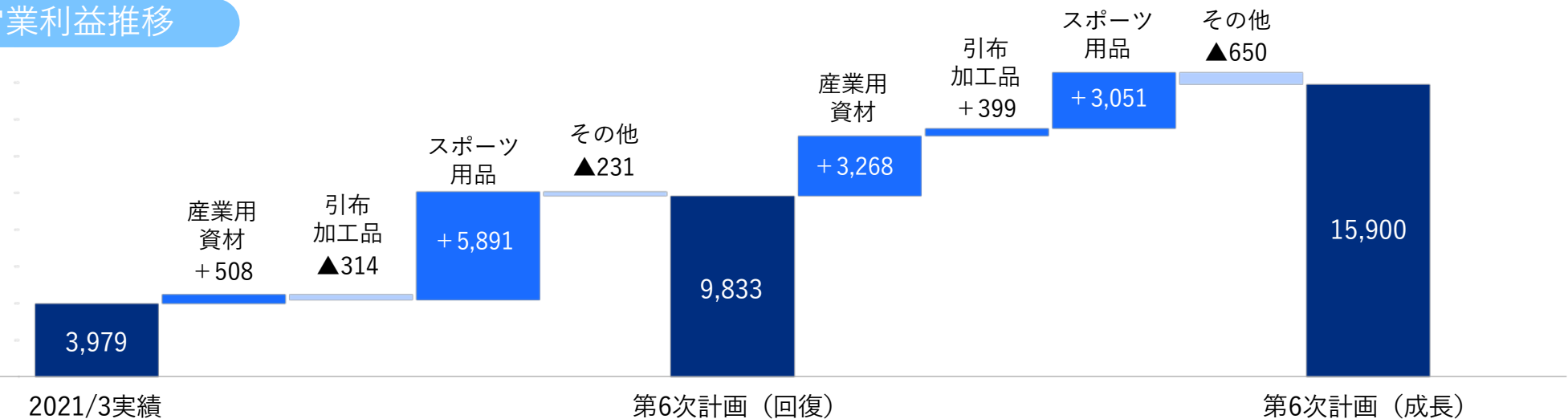
		第5次	第6次 (回復)	第6次 (成長)
		実績	計画	計画
売上高	連結	99,397	104,466	121,100
	産業用資材	63,636	65,835	75,500
	引布加工品	15,568	13,194	14,500
	スポーツ用品	19,058	24,407	30,200
	その他	1,136	1,031	900
営業利益	連結	3,979	9,833	15,900
	産業用資材	2,424	2,932	6,200
	引布加工品	615	301	700
	スポーツ用品	2,258	8,149	11,200
	その他	▲1,318	▲1,550	▲2,200
営業利益率 (%)		4.0%	9.4%	13.1%

中期経営計画の進捗状況②

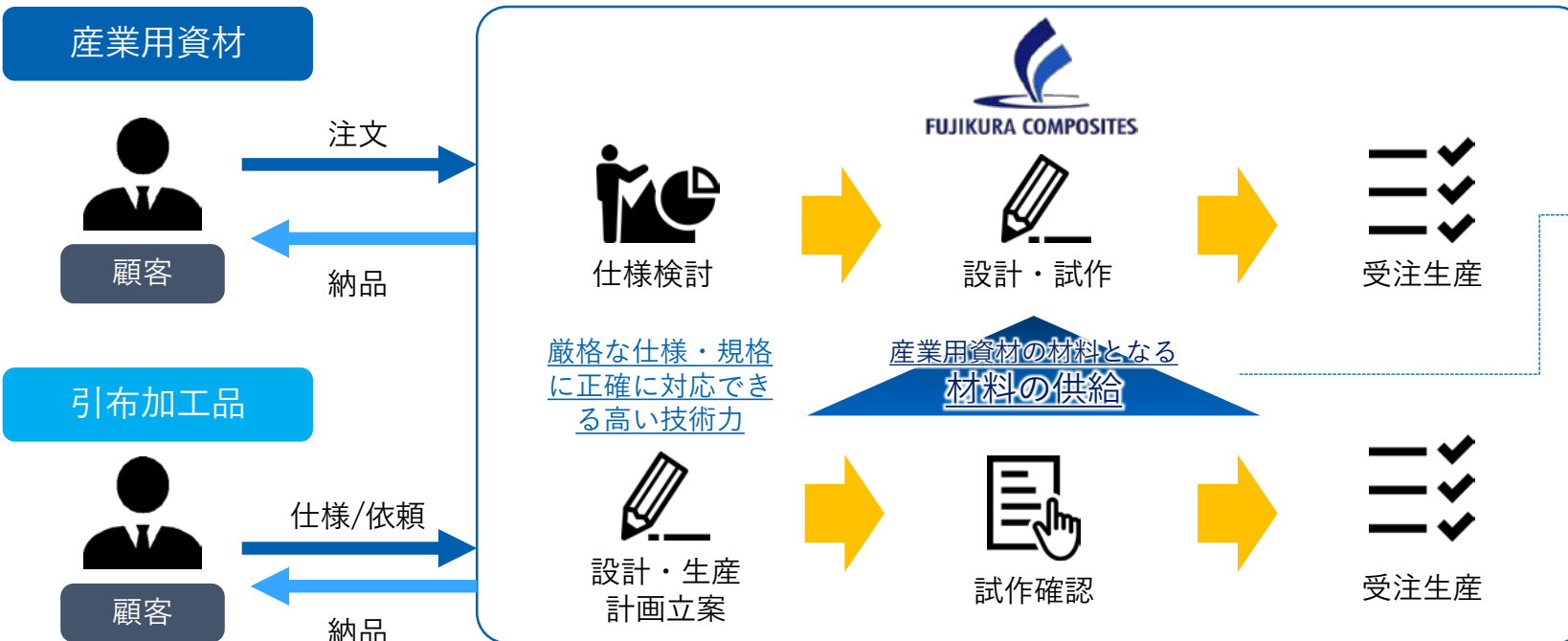
売上高推移



営業利益推移



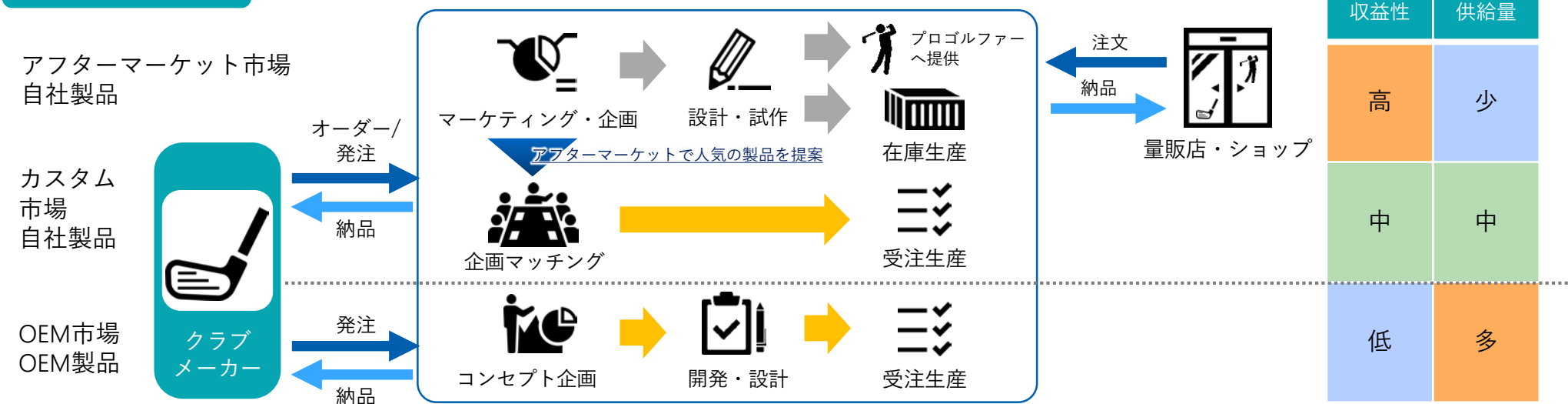
各セグメントのビジネスモデル



薄膜ゴム引布製造技術

最終製品から逆算し加工に適した製法で材料を生産、グループ内で供給を実施

スポーツ用品 ゴルフシャフトにみる3つのビジネスモデル



SWOT分析

内部要因

プラス要因

S

Strength (強み)

- 強固な顧客基盤
- 多様な顧客ニーズに応える技術開発力
- 開発～製造まで自社で行える総合力

マイナス要因

W

Weakness (課題)

- 海外売上げはドル建て、元建て
⇒為替変動によるリスク
- 自動車；価格競争が激しい⇒薄利

外部要因

O

Opportunity (機会)

- 自動車；EV化
- 住設；省エネ、環境への関心の高まりによる
買い替え需要
- DX時代における半導体需要の増加
- 医療市場への参入

T

Threat (脅威)

- EV化によるエンジン周辺部品の減少
- 自動車；国内の人口減少による市場自体の縮小
- 半導体関連製品の競争激化による価格低下の可能性

売上高

266億円
【2025年3月期】



234億円
【2022年3月期】

営業利益

26億円
【2025年3月期】



11億円
【2022年3月期】

セグメント中期計画概要 フェーズ2（変更後）

- 自動車及び住宅設備は2025年3月期での完全回復を想定も2022年3月期で回復、新規受注の獲得に注力。原材料調達難、値上がりについてはサプライチェーンの複線化と価格転嫁で対応。
- 現行の液晶・半導体関連設備投資の2025年3月期以降のピークアウトは変わらず、事業戦略アイテムの具体化と投資計画の実行。
- 利益面では自動化、省人化推進による原価低減、不良低減の効果を加速させるため、M&Aを実行し効果を最大化。

事業戦略の概要

- NEP（次世代自動車）推進室として活動する中で複数の開発案件が出てきており、試作段階へ。
- 風力発電ブレード保護シートをグローバルで販売促進を継続。
- 精密分野において液晶・半導体関連設備に関して除振台以外の領域での具体的検討が加速、実行判断のフェーズへ。
- 医療分野においては量産化の遅れがみられるものの着実に進め、新たな領域への投資実行フェーズへ移行。
- 荷重センサ、液体検知センサについて用途検討から実証実験フェーズへ移行。

SWOT分析

内部要因

プラス要因

S

Strength (強み)

- 引布；日本初の引布製造企業としての技術力の高さ
- 印材；紙だけでなく、金属やプラスチックにも印刷可能な多様なラインナップ
- 加工品；用途に応じた機能性ゴム引布を活用した独自の気室構造体設計技術

外部要因

O

Opportunity (機会)

- 引布；市場の間口が広い
- 印材；環境対応型印刷の普及
- 加工品；防衛省関連の受注，船主および造船所との信頼関係

マイナス要因

W

Weakness (課題)

- 引布；装置産業であり，設備投資・更新計画が困難
ロットサイズの下限に制約がある
- 印材；装置産業であり，設備投資・更新計画が困難
ロットサイズの下限に制約がある
- 加工品；国内外製造拠点の人材確保と技能承継

T

Threat (脅威)

- 引布；同業他社の撤退による薄利品の引き合い増加
- 印材；ペーパーレス化による印刷需要の低下
- 加工品；海外製品の国内流入

セグメント計画：引布加工品

売上高

50億円

【2025年3月期】



42億円

【2022年3月期】

営業利益

3億円

【2025年3月期】



0.6億円

【2022年3月期】

セグメント中期計画概要 フェーズ2（変更後）

- 引布加工品は官需による安定受注、救命いかだ整備事業の拡大、産業資材での新規獲得で堅実な成長を目指す。
- 地政学リスクの顕在化、海難事故等により救命具の重要度が増加、要求特性に応じた開発を確実に実行する。
- 印刷材料はグローバルブランドの投入を継続して推進、海外販売の増加を加速。

事業戦略の概要

- 新型筏の市場投入を継続、整備事業契約獲得の増加を図る。
- 市場の要求に応じた製品開発を推進する。
- 医療用陰圧テントの開発が完了、販売実績の積み上げを目指す。

SWOT分析



売上高

108億円
【2025年3月期】



91億円
【2022年3月期】

営業利益

40億円
【2025年3月期】



34億円
【2022年3月期】

セグメント中期計画概要 フェーズ2（変更後）

- ゴルフシャフトは国内における市場シェアを維持しつつ、北米拠点と協働でグローバルでのブランディング戦略を継続、推進、キャパオーバー解消に向けた設備投資も実行する。
- 産業用品は大型量産案件の立ち上げに向け設備投資を実行、収益基盤を確実なものとする。
- 利益面では現在の収益性を維持しつつ、各拠点、協力会社の役割を明確にして増減に柔軟な対応ができる体制を構築する。

事業戦略の概要

- 継続してグローバルでのブランディング戦略をさらに推進する。
- 産業用品においてはこれまでの方針（EV及びFCV、無人飛行機、ロボット市場を推進）を維持しながら大型量産案件を確実に立ち上げ事業化のための設備投資を実行する。
- 生産工場のロックダウンの影響で投入の遅れた新カテゴリーシューズ【CRV】の販売開始する。登山にとらわれないライトアウトドアを意識した商品群でカジュアルや靴市場でのシェア獲得を目指す。



FUJIKURA COMPOSITES



2022年6月株式を取得し子会社化を実施

有限会社 テクノロジーサービス

自動化・省人化装置の設計・製作を
すべて自社で行える一貫した生産体制と
クライアントからの要望に応える優れた技術力を保持

期待される効果

生産技術力
向上

価格競争力・
収益性向上

自動化・省人化
ノウハウの獲得

差別化による
競争力の向上



カバーする事業分野

FA システム

設計・製作 分野

半導体生産設備
ロボット
製品自動計測システム

産業用電気機械装置

受託商品開発・
生産・保守 分野

省力化自動化装置
マイコン応用機器
ボイラ予防保全装置
研究開発用試験装置

引布加工品セグメント

- 創業以来120年以上続く事業
- 他のセグメントにおいても技術的なつながりがあり、重要な位置づけ

戦前 軍需産業としての位置づけ



現在 “いのちをささえる”事業

- 地政学リスクの増大とともに国防の重要度が増大

救命いかだや化学防護衣：国防を担う自衛隊員の皆様の“いのちをささえる”製品として重要な役割

救命いかだ

海難事故発生時の“いのちをささえる”製品

長年にわたり海の安全を守るために貢献、今後もより安全な航海を支えるため尽力する



VENTUS TR BLUE

世界中のトッププロから信頼を
勝ち得た安定性を次のレベルに

大好評
シリーズ
最新版

北米開発
モデル

製品特長

VeloCore Technology

- 既存VENTUS BLUEと同じくVeloCore Technologyを搭載
- 超高弾性70tカーボンと高弾性カーボンをバイアス層に積層することで、オフセンター時のヘッドの振れを抑制し、優れたボールコントロール性能を実現
- さらに、シャフト先端の高い曲げ剛性がボール初速の最大化を生み出す

Bi-axial Spread Tow material

- 最外層に独自の開織クロス材を採用
- 中間部の振れと曲げの剛性を高める事により、VeloCoreテクノロジーの最大の効果である球の散らばりを更に向上



SPEEDER NX

シャフト概念を覆す新設計で
振りやすさと、飛距離性能を両立

大好評
シリーズ
最新版

国内開発
主力
モデル

製品特長

ENSO

- フジクラ独自の3次元モーションキャプチャシステムでスイング中のクラブ動解析が可能に
- スイングの過程とボール弾道の結果に関連性を見出すことに成功

VTC

- 中調子のEI分布で、トルク分布をより緻密にコントロール
- 先端と手元のトルクを高めることで、中調子の振りやすさと、高初速・高弾道の両立を実現
- 結果、インパクトに向けてのロフト角の上昇率が大きくなり、〈フェース角がクローズ〉〈入射角がアッパーブロー〉になることが判明



DAYTONA SPEEDER X

コンポジット・テクノロジーの集大成！
高品質素材が織りなす異次元のスピード感

高品質
高価格

特約店
限定販売



開発コンセプト

- 地球上で考えうる超高性能素材を採用
- ロートルク設計を継承
- フレックスごとのウェイトフロー
- キックポイントを先中にする事でさらなる弾きとつかまりを追求

製品特長

超低樹脂カーボンシート「RC15%プリプレグ」

- 樹脂量が少なくなることでカーボン繊維の比率がより高まり緻密なシャフトが完成

「トレカ®T1100G」を超えた

東レの最先端カーボン繊維「トレカ®M40X」

- ロケット向けや次々世代航空機への使用を前提として開発された最新の素材

超高弾性カーボン繊維90tカーボン

- この世で最も硬い90tカーボンをフルレングスで積層

三菱ケミカル「パイロフィル®MR70」

× 東レ「トレカ®T1100G」

- DIAMOND Speederの「パイロフィル®MR70」と、PLATINUM Speederの「トレカ®T1100G」を共にフルレングスで積層

高強度・高剛性・高弾性率金属繊維「ボロン繊維」

- 戦闘機の尾翼、レーシングカーに用いられる強度・剛性・弾性率に優れたボロン繊維

サステナビリティ経営の実現に向け 「変化にチャレンジし、変わるから変えるへ」

事業ポートフォリオの再認識と再構築

収益性、継続性を加味して
関係会社を含めた再認識、分析、再構築へ

業務改革推進室の設置

部分最適化の業務改善から
全体最適化の業務改革へ
DX投資に向け着実なステップを踏む

SDGs推進委員会

優先課題が決定、KPI設定のフェーズへ

健康経営の推進

健康経営プロジェクト、
2021年スポーツエールカンパニー継続認定

ROE向上に対する考え方

	2022/3 (実績)	2023/3 (予想)	2025/3 (目標)	ROE向上のための施策
ROE	14.8%	14.6%	10%以上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10%以上の維持を目指す
(収益性) ①売上高純利益率 当期純利益 ÷ 売上高	10.9%	10.5%	↑	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業戦略による高付加価値品の売上高向上 ■ 自動化、省人化推進による収益性の向上
×				
(資産効率性) ②総資産回転率 売上高 ÷ 総資産	1.0回	1.0回	→	<ul style="list-style-type: none"> ■ 調達難を回避しながらの在庫圧縮 ■ 新規事業設備投資と設備稼働率向上
×				
③財務レバレッジ 総資産 ÷ 自己資本	1.4倍	1.4倍	→	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現状水準維持を想定も市場環境や資本効率等を勘案し、自己株式を取得

	第5次中期経営計画 結果	第6次中期経営計画 計画	第6次中期経営計画 進捗
海外拠点補強	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境規制の改正により第3期工事予定地の契約を解除 ● 第1、2期工場に生産設備を増強しフルキャパ生産 ● 事業再編により不採算事業の撤退を完了、生産能力増強投資も完了しフルキャパ生産 ● 国際情勢の変化により検討を一時凍結、中国拠点の再編に合わせ再検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地政学的リスクを最小化するため地産地消推進を基本方針とし、米国、中国、ベトナム、第5生産拠点すべてを加味した再配置を計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外子会社を含む当社グループの既存設備の更新、増設及び自動化に係る設備投資 ● 実施予定時期： 2022年4月～2024年3月 ● 予定総額：2,133百万円
稼ぐ力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備投資を完了し、生産技術部を組織化、運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動化推進による原価低減、不良低減を確実に実らせ収益性を向上、全社へ横断的に展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動化、省人化設備設計、製造会社の買収 ● 実施時期：2022年6月 ● 買収価格：非公表
新規事業開拓	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトから実行部隊の事業部へ移管を完了、量産設備の導入も完了 ● ISO13485取得済み 	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発フェーズから量産フェーズへ移行、市場実績を確実に積み上げ ● 新規引き合い獲得から追加投資を実行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業開拓に係る設備投資 ● 実施予定時期： 2022年4月～2024年3月 ● 予定総額：2,250百万円
業務改革の推進	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務改革推進室を設置し、DX投資に向けた計画立案、業務改革を実行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務改革のためのシステム刷新に係る設備投資 ● 実施予定時期： 2022年4月～2024年3月 ● 予定総額：300百万円

■ SDGs推進委員会

当社では、2021年2月にSDGs推進委員会を発足させ、委員会を構成する若手メンバーを中心に、SDGsへの取り組みを進めております。委員会では、当社の「5つのささえる」を通じて、解決すべき優先課題について話し合いSDGsの17のゴールのうち、7つのゴールを優先課題として設定致しました。環境負荷低減活動といった、兼ねてからの当社の取り組みに加え、優先課題解決に向けた目標を新たに具体化・設定しつつ、KPIへの統合を進めています。

E

“くらし” “ものづくり” “エネルギー” をささえる

- 製品の供給をとおして環境負荷低減に貢献します。
(次世代自動車、省エネ住宅設備、再生可能エネルギー関連部品 など)
- 生産活動をとおして廃棄物、VOCの削減に努めます。

Environment

S

“いのち” “レジャー” をささえる

- 製品の供給をとおして社会の課題解決に貢献します。
(医療機器、救命いかだ、ゴルフシャフト、ノルディックウォーキングポール など)
- 労働環境の改善に積極的に取り組みます。
(長時間労働削減に向けた取り組み、テレワーク推進環境の整備・運用 など)

Social

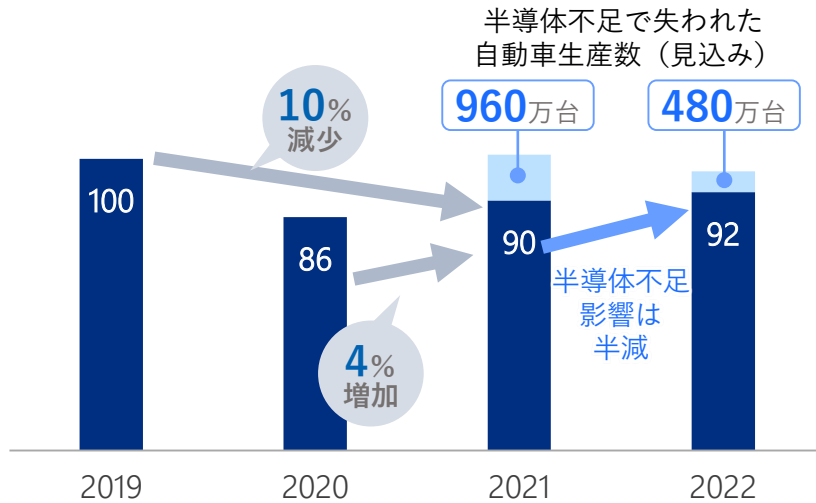


V. 外部環境データ



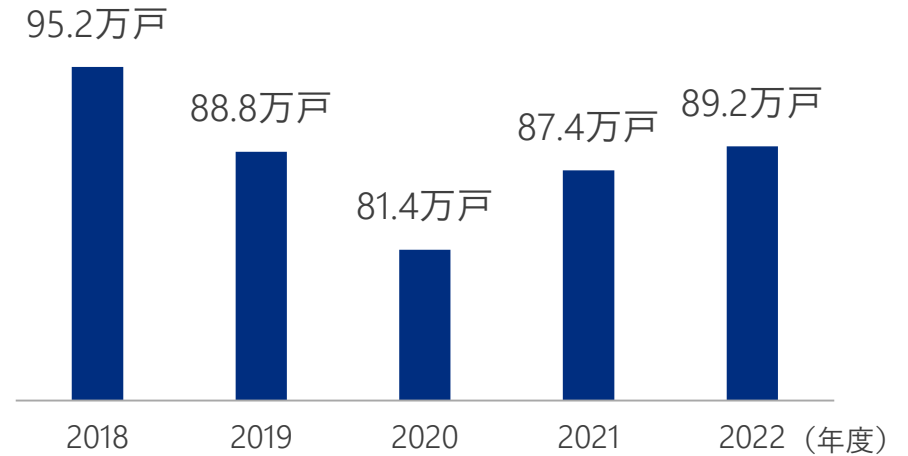
FUJIKURA COMPOSITES

1. 自動車生産台数推移



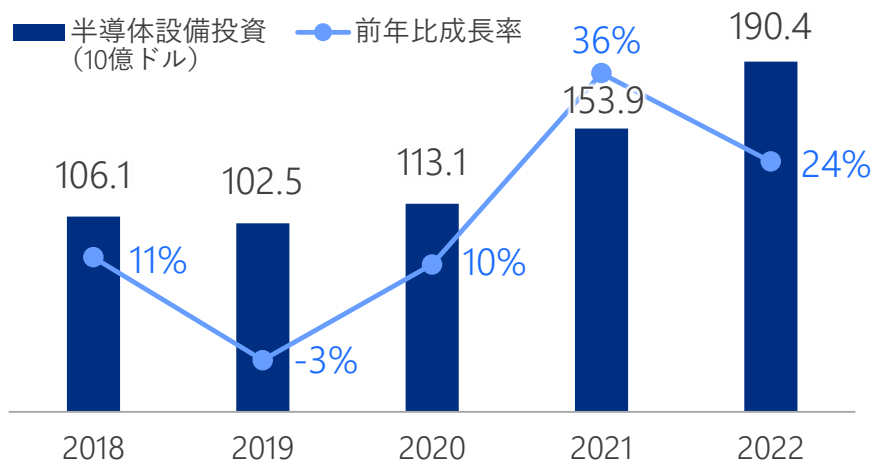
(参考) AUTO CAR JAPAN、LMCオートモーティブ

2: 新設住宅着工戸数の推移（季節調整値年率）



(出所) 国土交通省「建築着工統計」をもとに作成

3: 半導体関連設備投資と前年比成長率の推移



出所: (IC Insights)半導体の設備投資額(単位:10億ドル)と前年比成長率をもとに当社にて作成

4: 半導体関連資源アンケート結果

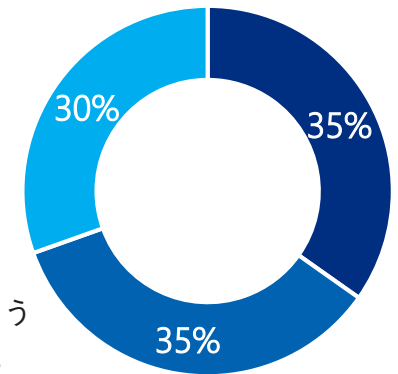
ウクライナ危機が製造に与える影響度合い

57%が材料価格の高騰

48%が入手困難性増大

を懸念

- 影響が出そう
- 影響はなさそう
- 不明・その他



出所: SEMI・日経クロステック共同 アンケートウクライナ危機における電子産業サプライチェーン緊急調査



VI. 補足資料



FUJIKURA COMPOSITES

杭州藤倉橡膠有限公司（杭州藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点、販売のための分公司を上海と広州に有する。原材料から金型の開発も担い中国地域のR&D拠点でもある。1996年3月18日設立。資本金40,036千元。

安吉藤倉橡膠有限公司（安吉藤倉）

中国浙江省所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。2016年7月第二工場竣工、同年10月より稼働している。自動車部品用に最新鋭の自動化成形加工設備を導入している。2011年2月28日設立。資本金149,465千元。

FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC. (FCH)

ベトナム北部ハイフォン市に所在の産業用資材、引布加工品およびゴルフ用カーボンシャフトの製造拠点。2014年6月に第二工場を竣工、2017年4月には検査棟が竣工され、さらに工業用品部門の拡大を予定している。2002年9月18日設立。資本金2,947千米ドル。

IER Fujikura, Inc. (IFI)

米国オハイオ州所在の工業用ゴム製品の製造販売拠点。北米での営業を強化すると同時に、自動車分野以外の市場開拓を進めている。1958年創業のIER社を2006年3月に買収し、同年5月24日設立。資本金3,800千米ドル。

Fujikura Composite America, Inc. (FCA)

米国カリフォルニア州カールスバッド所在のゴルフ用カーボンシャフトの開発および販売拠点。最大のゴルフ市場である米国において、ブランディング戦略の推進と更なるシェアの確保に邁進している。1994年7月14日設立。資本金4,000千米ドル。

株式会社キャラバン

1952年に製造開始した軽登山用「キャラバンシューズ」をはじめとして、登山、アウトドア用品の開発製造販売および輸入販売を行っている。1954年6月19日設立。資本金156百万円。

- 1901年 10月 藤倉電線護謨合名会社を創立、ゴム引布の製造を開始。
- 1910年 3月 電線部門とゴム部門を分離、藤倉合名会社防水布製造所を設立。
- 1920年 4月 株式会社に改め藤倉工業株式会社を設立。
- 1948年 10月 藤倉ゴム工業株式会社に商号変更。
- 1949年 5月 東京証券取引所に上場。
- 1953年 2月 藤栄運輸株式会社（現連結子会社）を設立。
- 1959年 4月 大阪営業所（現大阪支店）を開設。
- 1969年 4月 福島県原町市（現南相馬市）に原町工場開設。
- 1971年 9月 埼玉県岩槻市（現さいたま市岩槻区）に岩槻工場開設。
- 1972年 10月 茨城県勝田市（現ひたちなか市）に勝田出張所（現勝田営業所）開設。
- 1985年 6月 藤栄産業株式会社を設立。
- 1991年 4月 株式会社キャラバン（現連結子会社）を子会社化。
- 1994年 7月 米国カリフォルニア州ビスタ市にFujikura Composite America, Inc.（現連結子会社）を設立。
- 1996年 5月 中国浙江省杭州市に杭州藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立。
- 2000年 11月 名古屋営業所を開設。
- 2002年 9月 ベトナムハイフォン市にFUJIKURA COMPOSITE HAIPHONG, Inc.（現連結子会社）を設立。
- 2006年 5月 米国オハイオ州のIER Fujikura, Inc.（現連結子会社）を子会社化。
- 2009年 7月 米国イリノイ州にFUJIKURA GRAPHICS, INC.（現連結子会社）を設立。
- 2010年 11月 福島県南相馬市に小高工場開設。
- 2011年 1月 岩槻工場内にエンジニアリングセンター開設。
- 2011年 2月 中国浙江省安吉経済開発区に安吉藤倉橡膠有限公司（現連結子会社）を設立。
- 2011年 9月 本社事業所及びスポーツ用品営業部を東京都江東区へ移転。
- 2012年 3月 韓国ソウル市にFujikura Composite Korea, Co., Ltd.を設立。
- 2012年 4月 埼玉県加須市に加須工場開設。
- 2015年 5月 米国ニュージャージー州にFUJIKURA GRAPHICS, INC.（現連結子会社）を移転。
- 2017年 4月 FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.の検査棟を竣工。
- 2018年 3月 中国大連市に安吉藤倉橡膠有限公司の大連事務所開設
- 2019年 4月 藤倉コンポジット株式会社に商号変更。
- 2020年 4月 藤栄産業株式会社を吸収合併。
原町工場内にLIM棟開設。

国内拠点 ～国内製造3拠点～

【営業拠点】

- ① 本社
- ② 大阪支店
- ③ 名古屋営業所
- ④ 勝田営業所

【生産拠点】

- ① 岩槻工場（埼玉県）
- ② 原町工場（福島県）
- ③ 小高工場（福島県）
- ④ 加須工場（埼玉県）



本社

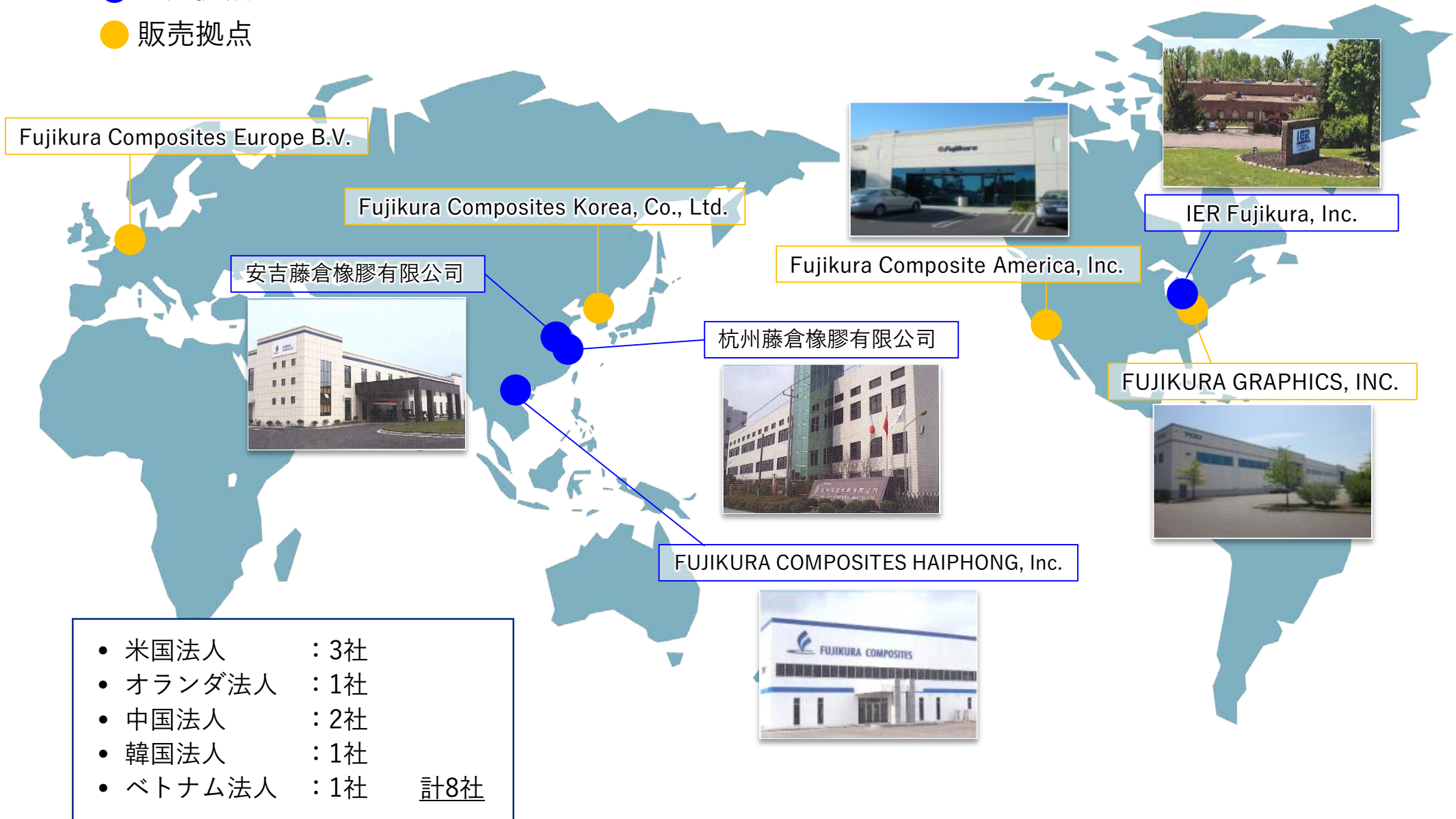


東京都江東区有明3-5-7
TOC有明イーストタワー

グローバル拠点 ～米国、中国、ベトナムを中心に計8社～

● 生産拠点

● 販売拠点





設立：1971年9月
所在地：埼玉県さいたま市岩槻区
従業員数：425名（2022年3月末現在）
敷地面積：49,088㎡
延床面積：34,950㎡
主要製品：電気材料、印刷材料、
ゴム引布、加工品



【エンジニアリングセンター 併設】

2011年に設立。
当社グループの各工場や事業に分散していた技術者が集結し、技術情報の共有化と技術総合力の強化を図る目的で設立。



設立：1969年4月
所在地：福島県南相馬市
従業員数：363名（2022年3月末現在）
敷地面積：47,981m²
延床面積：18,752m²
主要製品：工業用ゴム製品、
制御機器、スポーツ用品



【LIM棟 併設】

2020年に新設。
医療用ゴム製品を含むLIM製品の生産設備を
移管し、生産効率の改善を図る目的で設立。



設立：2012年4月
所在地：埼玉県加須市
従業員数：128名（2022年3月末現在）
敷地面積：28,840m²
延床面積：16,343m²
主要製品：工業用ゴム製品、混練り

米国法人



■ IER Fujikura, Inc.

設立：2006年5月
所在地：オハイオ州
従業員数：98名（2021年12月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品の製造販売



■ Fujikura Composite America, Inc.

設立：1994年4月
所在地：カリフォルニア州
従業員数：26名（2021年12月末現在）
事業内容：ゴルフ用カーボンシャフトの開発及び販売



■ FUJIKURA GRAPHICS, INC.

設立：2009年7月
所在地：ニュージャージー州
従業員数：3名（2021年12月末現在）
事業内容：印刷用ブランケットの販売

中国法人



■ 杭州藤倉橡膠有限公司

設立：1996年3月
所在地：浙江省杭州市
従業員数：393名（2021年12月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品、制御機器の製造販売
支店：広州市



■ 安吉藤倉橡膠有限公司

設立：2012年2月
所在地：浙江省湖州市
従業員数：347名（2021年12月末現在）
事業内容：工業用ゴム製品の製造販売
支店：大連市

ベトナム法人



■ FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, Inc.

設 立 : 2002年9月
所 在 地 : ハイフォン市
従 業 員 数 : 956名 (2021年12月末現在)
事 業 内 容 : 産業用資材、引布加工品及び
ゴルフ用カーボンシャフトの製造

【注意事項】

資料の内容につきましては細心の注意を払ってはおりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。

そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることあり得ます。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

藤倉コンポジット株式会社

人事総務部 総務広報チーム

TEL : 03-3527-8412 FAX : 03-3527-8330